

# 不登校の子ども 居場所あるよ

小中学校時代に不登校を経験した広島市の歡啓大4年、成毛侑瑠樟さん(25)「熊本市出身」が、不登校の子どもたちを支援する取り組みを続けている。学校以外に気軽に出入りできる場所を紹介するウェブサイトを来年3月に公開しよう、準備を進めている。

成毛さんは小学3年のとき、クラスのグループになじめず不登校になった。「何日か休むと、勉強もクラスの話題にもついていけない。登校することが怖くなった」と負のスパイラルに陥った。当時は学校に行くことが正解だと思い、「ルーフトから外れた自分を駄目な存在と決めつけ、ずっと家にいた」。

転機は別室登校が多かった中学時代。ある時、70代の女性の教員から「すてきな生き方をしているね」と声をかけられた。自分を受け入れてもらった気がして楽になった。

熊本市内の通信制の高校に進学後は、不登校支援に取り組む教員らの活動に参加。子どもや保護者、教育関係者に自身の経験を伝え、「教室だけが居場所じゃない。ありのままの姿を認めてほしい」と訴えた。先生と子どもが意見交換する「対話プロジェクト」も企画した。大学進学後も読書会やプログラミング教室な



不登校だった経験を生かして子どもたちを支援している成毛侑瑠樟さん(本人提供)

お出かけサイト 来春公開へ  
全国対象「情報提供したい」

どを開き、学校に行けない子どもを支えている。

「お出かけサイト」の制作は東京のNPO法人と取り組む。子どもたちから「外に出たいと思っても、行く場所が分らない」といった声が多く寄せられたことがきっかけだ。

紹介する場所は、広島と東京を中心に熊本を含めた全国が対象。一般開放されている大学のキャンパスや企業の工場見学、イベント、インターネット上で交流できる仮想空間「メタバース」など、多様な「居場所」を掲載する予定だ。どんな人が受け入れてくれるのかイメージできるように、担当者や運営者に直接取材したインタビューを盛り込む。

サイト制作や運営、取材などにかかる費用200万円を、12月末までクラウドファンディングサイト「For Good」で募集している。

文部科学省によると2024年度、全国の不登校の小中学生は約35万4千人で、12年連続で過去最多となった。成毛さんは「不登校は特別なことではない。子どもたちがそれぞれの居場所を見つめられるよう、情報提供したい」と力を込める。

(後藤幸樹)



※イメージ図

成毛侑瑠樟さんが制作を目指す、不登校の子どもたちを支援するお出かけサイトのイメージ図